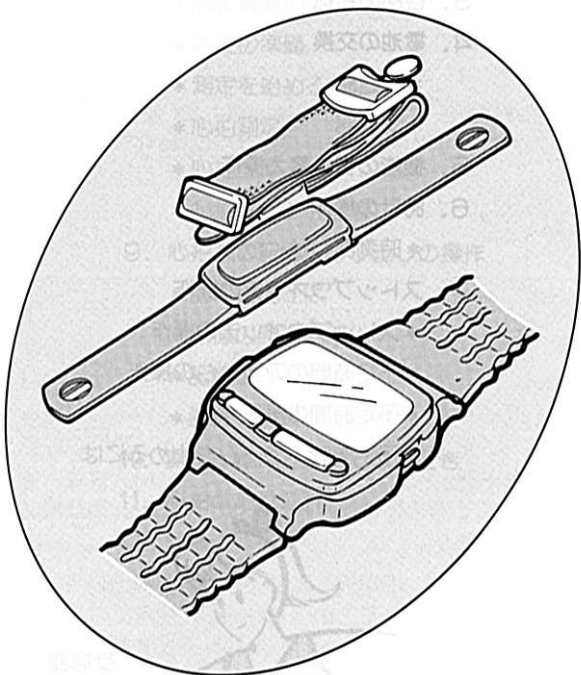


ワイヤレス 心拍計

パルスフーチ PUX-1001

取扱説明書

ご使用前にかならずお読みください。



保証書付

お買い上げありがとうございます。
この説明書には保証書を添付しております。
大切に保管してください。

もくじ

1. 安全上のご注意	3
2. 本器の特徴	7
3. 各部の名称	9
4. 電池の交換	10
* 発信器	10
* 受信器	10
5. 機能の切り替え操作	11
6. 時計の操作	12
* 時刻あわせ	12
7. ストップウォッチの操作	14
* ストップウォッチの操作	14
* 予定時間のアラームの操作	15
* 予定時間の設定	15
* 予定時間アラームを止めるには	16

8. 心拍計の操作	17
* 心拍測定条件の設定	17
* 心拍警報のON/OFF	19
* 測定の準備	20
* 測定を始める前に	21
* 心拍測定	21
* 心拍水準とは	22
* 心拍測定上の注意	23
9. 心拍数の記憶・呼び出しの操作	25
* 記憶機能とは	25
* 記憶の開始と停止	25
* 記憶の呼び出し	27
* 記憶の消去	28
10. 測定と操作が正常でないとき	29
11. 心拍数あれこれ	31
12. 仕様	35



1. 安全上のご注意

この「安全上のご注意」では、製品を安全にお使いいただき、あなたやこの製品をご使用になる方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、本製品をご使用になる際に守っていただきたい事項について表示してあります。本製品を安全に末永くご愛用いただくために、以下の注意事項をお守りください。

⚠ 警告 警告事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 注意事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性や物的損害の発生や機器の故障が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

●日頃より、運動（スポーツ）になれていない人が、いきなり急激な運動をするのは危険です。専門の医師やトレーナーに相談してから始めて下さい。また、お使いになる方の体力・体調にあった運動を、無理なく行して下さい。

●心拍水準は、平均的な体力の方を基に算出していますので、目安としてお使い下さい。ご使用になる方の体力、体調によっては心拍水準値をそのまま使用されると無理なトレーニングになる場合があります。また、逆に不足する場合があります。トレーニングを始める前に、専門の医師やトレーナーに相談されることをお勧めします。

●運動中は、常に自分の体調に気をつけて下さい。お使いになっている方の安全のために、体調が悪くなった時には、直ちに運動を中止して下さい。必要に応じて、医師に相談して下さい。

⚠ 注意

●本製品のケース（発信器、受信器）、発信器ゴム電極部、ベルト、バンドは、直接肌に接しますので常に清潔にしてご使用ください。

汚れたままにしておくと、皮膚の弱い方はかぶれたりすることがありますので注意してください。万一、肌などに異常が生じた場合には、直ちに使用を中止し、専門の医師にご相談ください。

●生活防水ですが、本器内に水が入りますと故障の原因となりますので、水の中につけないでください。

●発信器のベルト部分に付いている電極は、特殊な導電性ゴムで作られていますので、折り曲げたり、引っ張ったり、叩いたりしないでください。導電性ゴムの剝離の恐れ、故障の原因となります。



⚠ 注意

●本器を長時間使用しない場合には、受信器と発信器の電池を取りはずしてください。また、電池を入れたまま、直射日光が長く当たったり、高温（摂氏50℃以上）、低温（摂氏マイナス10℃以下）になる所に放置しないでください。電池が漏液したり、電池寿命が短くなったりする恐れがあります。

さらに、受信器の時計の遅れ、進みが生じたり、止まったりする原因となります。

●ゴムベルトを洗濯する場合は、発信器のベルト部分より取りはずしてから行って下さい。また、洗濯機で洗ったり、もみ洗いはしないで下さい。洗うときは、中性洗剤で押し洗いし、陰干しして下さい。

●落としたり、強くぶつけたりしないでください。通常の使用状態でのショックやランニング等の軽スポーツによる影響はありませんが、落とすなどの強い衝撃を与えると、故障の恐れがあります。

●本体は特殊なプラスチックで作られていますので、汚れは柔らかい布でふき取して下さい。シンナー・ガソリン等の各種溶剤及びそれらを含有するものは使用しないで下さい。変色・ひび割れ等の原因となります。



電池の取り扱いに関する注意

リチウム電池は、リチウムや有機溶媒などの可燃性物質を内蔵しています。電池の取り扱いを誤りますと、発熱、破裂、発火等により、けがをしたり、火災に至る恐れがあります。

下記の禁止事項をお守りください。

⚠ 警告

●ショート、火中投入、加熱、充電、分解、加圧変形、逆挿入はしないでください。

発熱、破裂、発火原因の恐れがあります。また、漏れたガスによる喉への刺激、漏液の原因になります。

●使用済みの電池は、端子にテープ等を巻き、絶縁して廃棄してください。

他の金属、電池とショートして発熱、破裂、発火の原因になります。

●電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一飲み込んだ場合には、すぐに医師にご相談ください。

2. 本器の特徴

心拍測定原理

本器は心電計と同じ原理により測定しています。この原理は、心臓が全身に血液を循環させるときに、心筋の興奮によって発生する電気(活動電流)が体の内部に流れ、この電気的变化を特殊な電極を通して検出し、1分間の心拍数に換算しデジタル表示するものです。

上限心拍警報

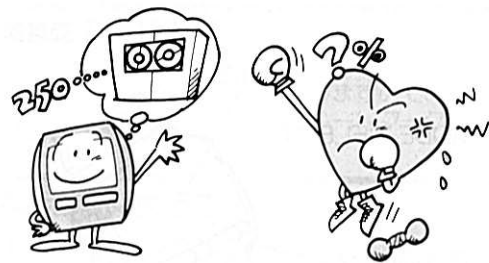
トレーニングやリハビリテーションで、あなたの運動負荷の目安として上限心拍数を設定できます。設定値よりも心拍数が高くなると、警報音を鳴らし、運動が強すぎることを知らせます。

下限心拍警報

トレーニングにより心肺機能を高めるため、最低限の運動負荷の目安として下限心拍数を設定できます。設定値よりも心拍数が低くなると、警報音を鳴らし、運動負荷が弱すぎることを知らせます。

心拍記憶機能

測定中に心拍数を255回まで記憶できます。さらに、記憶を呼び出し、心拍数の変化を確認できます。これにより、トレーニング・リハビリなどの運動管理が確実に行えます。



心拍水準

各種の運動中に、その運動レベルがどのくらいの強さにあるかを測定心拍数から計算し、パーセント表示します。この測定心拍水準を確認することにより、運動の目的に合った、効率的な運動ができます。

時計

時・分・秒表示(12時間と24時間表示切り替え機能付き)

ストップウォッチ

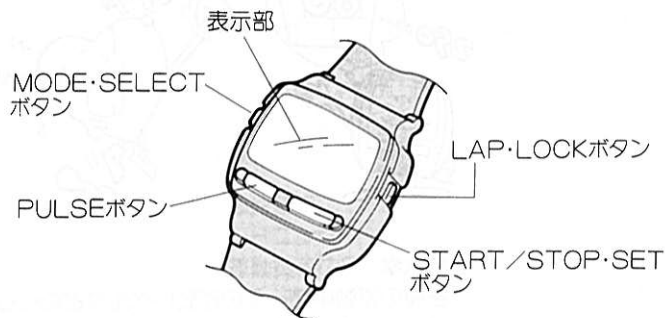
運動の時間測定などにご使用になれます。また、ラップ機能により途中経過時間も測ることができます。

予定時間アラーム

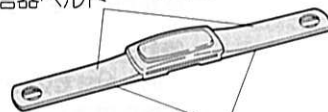
予定時間の終了をアラーム音により知ることができます。

3.各部の名称

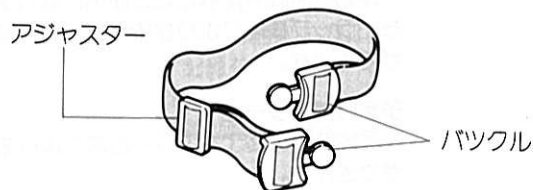
受信器



発信器ベルト 発信器



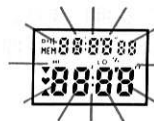
ゴムベルト



4.電池の交換

電池の交換時期

受信器では、全ての表示が点滅します。発信器では、信号を発信しなくなりますので、正しい測定中でも受信器表示部のハートマークが点滅しません。



電池の交換方法

電池交換を行う場合には、細かいゴミやホコリの多い場所では行わないでください。

ゴムパッキンやケースについたまま取り付けますと防水性能に影響します。

発信器



1. 電池ボタンをはずします。
電池ボタンの溝にコインなどを入れ、左に回してはずします。
2. 新しい電池と交換します。(電池はCR2032)
プラス・マイナスをまちがえないように入ってください。

受信器



3. 電池ボタンをしめます。
電池ボタンの溝にコインなどを入れ、押しながら右に回してしめつけます。

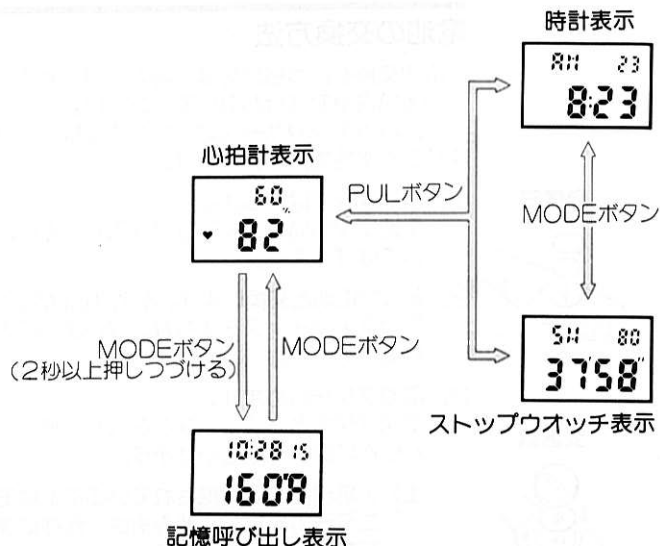
注) 工場出荷時に内蔵されている電池はモニター用です。電池寿命は、仕様に満たないことがあります。

※電池の取り扱いについては6ページの「電池の取り扱いに関する注意」をお読みのうえ正しく行ってください。

5.機能の切り替え操作

時計表示にするには

- 1) 心拍計表示ではPUL ボタンを押します。
- 2) ストップウォッチではMODEボタンを押します。



ストップウォッチ表示にするには

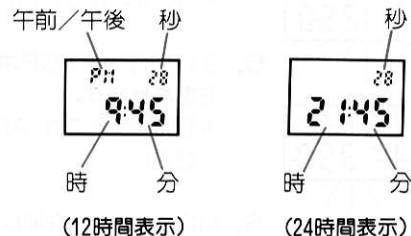
- 1) 心拍計表示ではPUL ボタンを押します。
- 2) 時計表示ではMODEボタンを押します。

6.時計の操作

時計表示にします。

他の表示では、次の操作はできません。

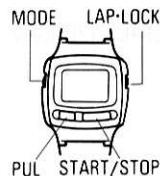
時計表示



時刻あわせ

例) 午後3時50分

時計表示にしてください。他の表示モードでは、時刻あわせの操作はできません。



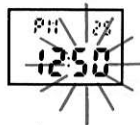
1. LOCK ボタンを2秒以上押しつづけます。
* 秒の表示部が点滅します。



2. MODE ボタンを押します。
* 分の表示部が点滅します。

3. START/STOPボタンを押し、分の数字をあわせませす。

* 1回押しで、数字が1ずつ増え、押しつづけると、連続的に数字が増えます。



4. MODEボタンを押します。

* 時の表示部が点滅します。



5. START/STOPボタンを押し、時の数字をあわせませす。

* 12時間表示では、AM・PMに注意してください。

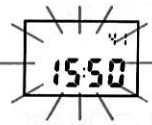


6. MODEボタンを押します。

* 全ての数字が点滅します。



7. START/STOPボタンを押し、12時間表示と24時間表示を選びませす。



8. LOCKボタンを押して、設定操作を終わります。

* 数字の点滅が消え、時刻表示になります。



注) 記憶機能で心拍数を記憶しているときに、この設定操作を行うと、心拍数の記憶を停止します。

7. ストップウォッチの操作

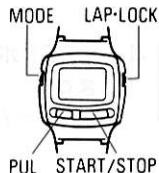
ストップウォッチの操作

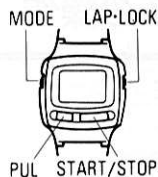
ストップウォッチ表示にします。

他の表示では、次の操作はできません。

表示は、1時間以内では、分・秒・1/100秒表示。

1時間を超えると、時・分・秒表示。





予定時間アラームの操作

予定時間アラームは、あらかじめ時間を設定しておきます。次にストップウォッチをスタートさせます。設定した時間になると、ブザー音で知らせます。

予定時間の設定

(例：15分後に設定)



1. 表示をゼロセット状態にしてください。



2. LOCKボタンを2秒以上押しつづけます。
* 表示部上段の中央に、数字、または、“—”が点滅します。



3. START/STOPボタンを押し、希望の数字(時間)にします。
(例：15分後に設定)



4. LOCKボタンを押して、設定操作を終わります。
* アラームマークが表れます。

アラームマーク

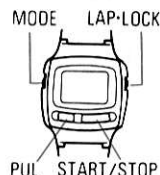
予定時間アラームを止めるには

予定時間の設定と同じ手順で、設定表示部を“—”にしてください。

- * “—”マークはSTART/STOPを繰り返し押し返すと表れます。
- * アラームマークが消えます。

注) 記憶機能で心拍数を記憶しているときに、この設定操作を行うと、心拍数の記憶を停止します。

8.心拍計の操作



心拍測定条件の設定

(上限警報値・下限警報値・記憶間隔・年齢)

例：上限心拍警報値=150拍/分

下限心拍警報値=100拍/分

心拍記憶間隔 = 15秒

年齢 = 35才

1. 表示部に“MEM”マークないことを確認してください。

*表示されていると心拍記憶間隔の設定ができません。28ページの「記憶の消去」により“MEM”マークを消します。

2. 心拍測定表示になっていることをたしかめます。

*心拍表示でない場合は、PULボタンを押します。

3. LOCKボタンを2秒以上押しつづけます。

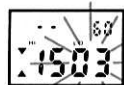
*上限値の数字が点滅します。

4. START/STOPボタンにより、希望の数にします。

*表示は、10の位からです。

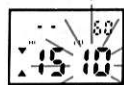
15=150拍/分

*1回押して、数字が1ずつ小さくなり、押しつづけると、連続的に数字が小さくなります。



5. MODEボタンを押します。

*下限値の数字が点滅します。



6. START/STOPボタンにより、希望の数にします。

*表示は、10の位からです。

10=100拍/分



7. MODEボタンを押します。

*心拍数の記憶間隔の数字が点滅します。



8. START/STOPボタンにより、60秒または、15秒のどちらかを選択します。



9. MODEボタンを押します。

*年齢の数字が点滅します。



10. START/STOPボタンにより、数字を年齢にあわせます。

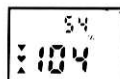
11. LOCKボタンを押して、設定を終わります。

注) 記憶機能で心拍数を記憶しているときに、この設定操作を行うと、心拍数の記憶を停止します。

この例の設定で心拍を測定すると、測定中の心拍数が、150拍/分以上または、100拍/分以下になると、警報音が鳴ります。これと同時に、表示は、上限マーク“▼”または、下限マーク“▲”のどちらかと、心拍数の表示が点滅し、上段表示部が消えます。

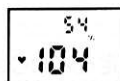
記憶を始めますと、心拍測定値は、15秒間隔で記憶されます。また、心拍水準は35才の一般的な最高心拍数を基準にして計算され、上段表示部に表れます。

心拍警報のON/OFF



1. 心拍測定表示になっていることを確かめます。

心拍測定でない場合は、PULボタンを押します。



2. LAPボタンを押し、ON/OFFします。
(1)ON状態で、上限マーク“▼”と下限マーク“▲”が表示されます。
(2)OFF状態で、上限マークと下限マークが消えます。

測定の準備



1. 受信器を手首に取り付けます。



2. 発信器のベルト部分の片側にゴムベルトを取り付けてください。

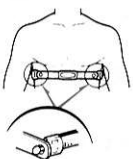
ゴムベルトのバックル部分を発信器ベルト部分の穴に下側より差し込み、90°回転させ上下方向より発信器ベルト部とバックル部を押して、取り付けてください。



3. 発信器を胸に取り付けます。
(皮膚に直接巻き付けます。)

2. と同様にして発信器のベルトのもう片方をゴムベルトにとめてください。

発信器がみぞおちの高さで体の正面中央になるようにします。



4. ゴムベルトのしめつけを合わせます。

身体を上下に動かしたときに、発信器が上下しないように、アジャスターで合わせます。

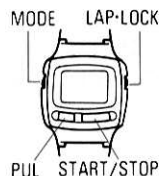
測定を始める前に

発信器ベルトのゴム電極と接触する部分の皮膚が冷えていたり、乾いていると電極と皮膚の接触抵抗が高くなり心拍が測れないことがあります。



測定を始める前に、電極と皮膚に指で水を付けてください。

それでも測れないときは、運動を始めてください。体が暖まり汗が出ますと、測れるようになります。



心拍測定

測定の準備ができたことを確認してから、次の手順で操作してください。

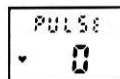
* 発信器の電源は、発信器を身体に取り付けると、自動的にオンになります。

1. PUL ボタンを押します。

(1) 上段の表示部に“PULSE”マークが点滅します。

(2) 測定心拍数が決定され、下段に表示されます。

* 同時に“PULSE”マークの点滅が消えます。



2. 上段表示の切り替え。

MODE ボタンを押すと上段の表示が変わります。(スイッチ音は、鳴りません。)



3. 測定を終えるときは、PUL ボタンを押してください。

注) ストップウオッチ機能の操作は、心拍表示ではできませんので、ストップウオッチ表示にしてから操作してください。

心拍水準とは

運動の強度を表すもので、心臓が最大限に鼓動できる状態を100%として、運動中の心拍数がその何パーセントにあたるかを示すものです。

本器では、心拍水準の計算は、設定された年齢により次の式で求めます。

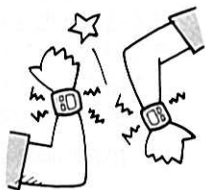
$$\text{最高心拍数} = 210 - 0.65 \times \text{年齢}$$

$$\text{心拍水準} = \frac{\text{測定心拍数}}{\text{最高心拍数}} \times 100$$

注) 本器の心拍水準は、運動強度の目安となりますが、心拍水準を参考に運動する場合は、専門の医師やトレーナーに相談して、適切な指導のもとで運動を行ってください。

心拍測定上の注意

- * 本器は、電磁誘導の無線方式を採用しておりますので、強い電磁波のするテレビ、ラジオ、無線アンテナ、パソコンなどの影響を受け、心拍が正しく測定できないことがあります。その場合は電磁波を出す機器から離れてください。
- * 無線方式を採用しておりますので、近くで本器と同じ心拍計を使っていると複数の信号が入り正しく測定できませんので、3m以上離れてください。
- * 踏切内及びその付近と高圧送電線の下では電磁波が発生している影響で心拍が正しく測定できないことがあります。



- * ゴムベルトのしめつけが弱すぎると、皮膚と電極ゴムの接触が悪くなり正確に測定できないときがあります。目安としては、運動中にベルトが落ちないようにしめつけてください。

- * 外気温が低く発汗しにくいときは、ウォームアップウェアなどを着て、発汗しやすいようにしてください。



9. 心拍数の記憶・ 呼び出しの操作

記憶機能とは

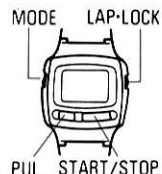
本器の記憶機能は、測定した心拍数と時刻を同時に255回記憶します。測定間隔は、15秒と60秒が設定できます。

(P17. 心拍測定条件の設定)

記憶する時間はスタートしたときの測定時刻、次からは経過時間を記憶します。

記憶時間は、15秒で約1時間

60秒で約4時間です。



記憶の開始と停止

測定心拍数の記憶の開始と停止は、記憶がないにもない状態(“MEM” マークが表示されていない)で、START/STOPボタンにより3回行えます。

注) 記憶の開始と停止を3回行ったか、または、255回になっていると、操作ができません。この場合は、記憶したものを消してから操作を行います。

記憶の開始



1. 心拍測定表示になっていることを確認します。

* 心拍表示でない場合は、PULボタンを押します。



2. START/STOPボタンを押します。

* 表示部に“MEM”マークが点滅して、記憶中を表します。

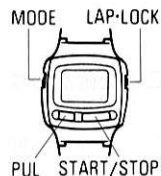
* 心拍数の記憶状態の時は、ストップウォッチモード、時計モードにしても、心拍数の測定は行っています。

記憶の停止

1. START/STOPボタンを2秒以上押しつづけます。

* 表示部の“MEM”マークが、点滅表示から固定表示になります。

記憶の呼び出し



表示に“MEM”マークが表れていれば、心拍数が記憶されています。

1. 心拍測定表示になっていることを確認します。

*心拍表示でない場合は、PULボタンを押します。

記憶の開始時刻



呼び出しマーク

経過時間



2. MODEボタンを2秒以上押しつづけます。
*記憶の呼出マーク“R”が表れ、同時に、最初の記憶心拍数と測定時刻が表示されます。

3. START/STOPボタンを押して、次々に記憶した心拍数を表示させ、読みます。
*上段の表示部には、“経過時間”が表示されます。

注) 記憶を呼び出しているときに、ブザー音“ビー”が鳴ったときは、2回目もしくは3回目の記憶を開始したときの、始めの記憶を表します。このとき上段には時刻を表します。

4. 呼び出しが終わりましたら、MODEボタンを押して、心拍測定にもどります。

記憶の消去

1. 心拍測定表示になっていることを確認します。

*心拍表示でない場合はPULボタンを押します。

2. MODEボタンを2秒以上押しつづけます。

*記憶の呼出マーク“R”が表れ、同時に、最初の記憶心拍数と測定時刻が表示されます。



3. LOCKボタンを2秒以上押しつづけます。

*“CLR”マークが表れ、記憶を消去して、心拍測定にもどります。



10.測定と操作が正常でないとき

こんなとき	原因	処置
心拍数が表れない。	発信器ベルトのゴム電極と皮膚の接触が悪い。	ゴム電極と皮膚の接触面に水を付ける。または、準備運動などにより、汗の出るのを待ってください。
	発信器の電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	発信器の電池が正しく入っていない。	プラスとマイナスをまちがえないようにして、電池を入れ直してください。
心拍数が大きくバラツク。	発信器が大きく動いている。	ゴムベルトの締めつけを調整し、発信器が大きく動かないようにしてください。
	電磁波が他の機器から出ている。	電磁波の出ている機器から、離れてください。
	同じ心拍計を使っている人が近くにいる。	3m以上離れてください。
受信器の全ての表示が点滅する。	受信器の電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。

こんなとき	原因	処置
時計の表示が薄い。または、表れない。	受信器の電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	受信器の電池が正しく入っていない。	プラスとマイナスをまちがえないようにして、電池を入れ直してください。
各種の設定操作ができない。	心拍数の記憶が残っていて、表示部に“MEM”マークが表示されている。	28ページの「記憶の消去」の操作をしてください。
心拍数の記憶ができない。	心拍数の記憶が255回をこえている。	28ページの「記憶の消去」の操作をしてください。
	記憶の開始・停止を3回以上繰り返した。	

* ごくまれに、受信器が異常な状態（ブザーが鳴ったまま、表示が変わらない、など）になる場合があります。この場合は、本体内の電池を、もう一度入れ直してください。

11.心拍数のあれこれ

日常生活と心拍

医師は、体温と同時に心拍を測ります。それは、心拍の速さによって体調を診ているのです。平常時の心拍数は個人の体力、年齢等によって差があります。そこで、毎日定期的に安静時の心拍数を測定し記憶して、その日の心拍と比較しますと、健康状態の変化を見分ける目安となります。

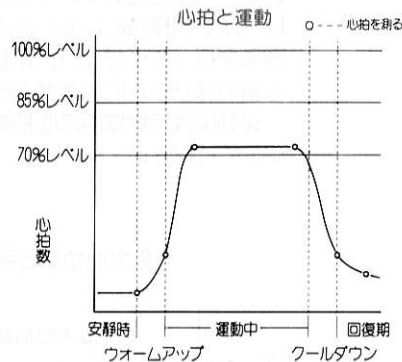
運動と心拍数

今日の現代病と呼ばれる中には、運動不足が誘因となっているものがあります。例えば、心臓・血管系疾患、糖尿病あるいは腰痛などがそれです。

この予防として運動処方があります。しかし、ただ運動するだけでは、過度の運動をしたために生命を失うということもあります。そこで、運動の強さの目標として“心拍数”を利用します。

心拍数と運動処方の関係

運動時の心拍数は、それぞれの運動処方により、下図の各時点で測ってください。



1) 安静時の心拍数

運動を始める前の心拍数です。

2) ウォーミングアップの心拍数

急激に心臓の拍動を上昇させますと危険ですから、5分間程度のウォーミングアップにより心拍数を100拍/分程度に高めてください。

3) 運動中の心拍数

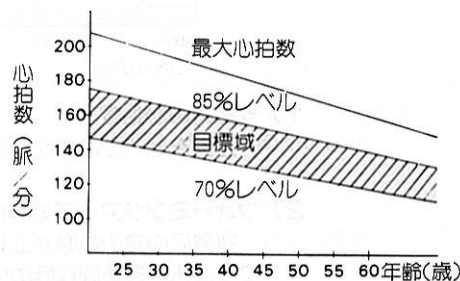
健康と若さを保つためや、心臓病の予防などのための運動は、自己流の質や量では危険なことがあります。

運動は専門の医師やトレーナーの適切な指導のもとに行ってください。

一般的には、心拍数を目安とします。そして、あなたの年齢で予測される最大の心拍数を出し、その50～60%レベルから始め、1～2週間ごとにレベルを高めていって、最終的に70～85%レベルを目標域として、ここに達する運動量で運動を行ってください。運動量が少なすぎても、心臓のはたらきに改善がみられません。

運動中は目標域内に心拍数が維持できるようにしてください

最大心拍数と目標域



このグラフは一般的な目安です。個人の体力・年齢により異なります。専門医と相談のうえ、長続きする運動計画をおすすめします。

4) 回復心拍数

運動が終わり、その後心拍数が安静時の心拍数に近づく心拍を回復心拍数といいます。5分後の心拍数が120拍/分以上の場合は、その時の身体状態に対して運動が強すぎたといえます。運動を長期間続けている人は、この心拍数の回復が早くなります。

12.仕様

型 式：PUX-1001

測定方法：心電検出

受信器

表 示：デジタル

測定範囲：30～250拍／分

精 度：読みの3%

心拍警報：上限設定 50～250拍／分

下限設定 30～240拍／分

心拍記憶：記憶回数255回

記憶間隔15秒と60秒

心拍水準：パーセント表示

設定年齢：10歳～99歳

時 刻：時・分・秒表示（12H／24H切り

替え機能付）

ストップウォッチ：00'00"～99：59'59"測定

アラーム：01'～60'の範囲で設定

電 源：リチウム電池1個（CR2032）

消費電力：3mW

電池寿命：6カ月（心拍測定を1日1時間使用）

重 量：37g

寸 法：15×41×50mm（高さ／幅／奥行き）

発信器

発信方法：電磁誘導方式

電 源：リチウム電池1個（CR2032）

消費電力：1.8mW

電池寿命：10カ月（心拍測定を1日1時間使用）

重 量：65g

寸 法：16×330×35mm（高さ／幅／奥行き）

MEMO

保証規定条件

NISSEI 製品のアフターサービスをお受けになる場合は、下記事項にご注意のうえ、かならず保証書をそえてお買い上げ店か、または弊社品質管理サービスあるいは東京営業所にお持ちいただくか、もしくは郵送して下さい。

- 1) 保証期間はお買い上げの日から1カ年といたします。
- 2) 保証期間内の修理は無償といたします。
- 3) 保証期間内でありましても、次の場合は適用の対象になりません。
 - a. 誤った取扱いに起因する故障および損傷。
 - b. 改造されたり、不当な修理をされたことに起因する故障および損傷。
 - c. 火災、水害等の天災による故障。
 - d. 保証書を紛失したり、提示がない場合または保証書の記載事項に洩れがある場合。

アフターサービスのお問い合わせは、
ご購入店、もしくは日本精密測器株式会社へご連絡下さい。

発売元

NISSEI 日本精密測器株式会社

〒377-02 群馬県北群馬郡子持村中郷2508-13 TEL.0279(20)2311代
東京営業所

〒111 東京都台東区雷門1-16-4 立花国際ビル5F TEL.03(5828)3216

NISSEI

品質保証書

脈拍計 PUX-1001

製造番号

このたびは、**NISSEI** 製品をお買い上げいただきありがとうございます。本脈拍計は、高度な技術と完全な品質管理、そして厳重な検査工程を経て造られた製品です。

しかし通常のご使用において万一故障が発生した場合は、保証規定条件記載の内容により修理および調整を行います。なお、本証は紛失されても再発行いたしませんので大切に保管して下さい。

※本保証書は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan.)

発売元

日本精密測器株式会社

日本精密測器株式会社
印式株密

〒377-02 群馬県北群馬郡子持村中郷2508-13
TEL 0279 (20) 2311代
東京営業所
〒111 東京都台東区雷門1-16-4 立花国際ビル5F
TEL 03 (5828) 3216

取扱販売店記入欄	お買上年月日	年	月	日
	販売店 (店名・住所・TEL)			
ご愛用者記入欄	住所 (〒)			
	TEL.			
	ご愛用者名			
	様			